タイムス少年サッカー新人戦

演奏で熱いエール

蟻ケ崎高吹奏楽部 入場行進曲を担当

選手たちの入場行進曲を演奏した蟻ケ崎高校吹奏楽部

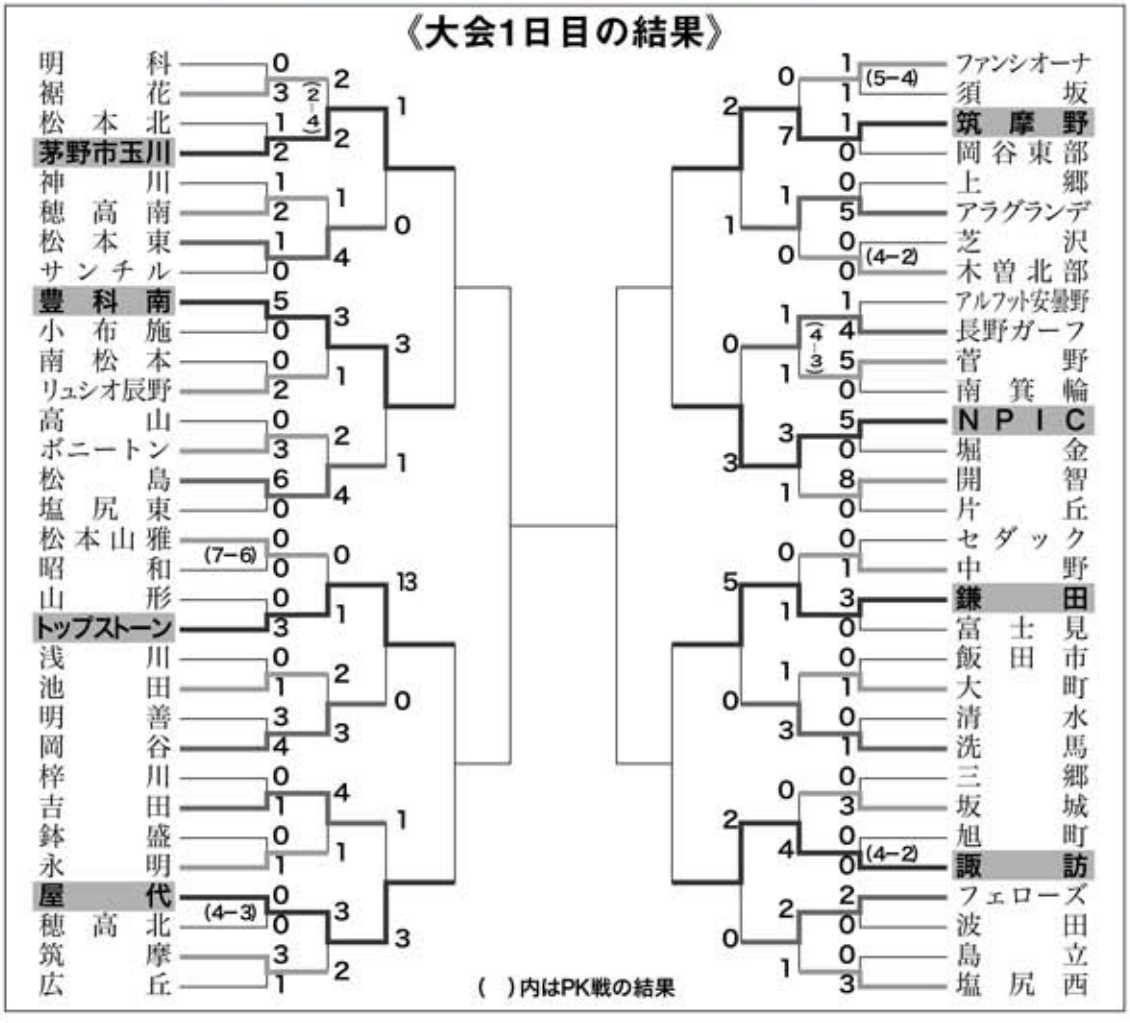
十二日に開幕した第二十一回市民タイムス少年サッカー新人戦・カガミカップ（市民タイムス、松本市サッカースポーツ少年団連合会主催、カガミグループ協賛）の各会場では、保護者や仲間からの熱い声援を受けた選手たちが、グラウンドを元気いっぱいに走り回った。「必ず勝つぞ」などの声が響く中、選手たちは激しいボールの奪い合いを繰り広げた。女子選手の姿もあり、男子に劣らぬ力強いプレーで観客を沸かせていた。

開会式で入場行進曲の演奏は、松本蟻ケ崎高校吹奏楽部（柳沢千鶴部長）が担当した。そろいの白いジャケットを羽織った一、二年生の部員四十七人が、息のあった演奏で大会の幕開けを華々しく盛り上げた。

冷え込みが厳しい朝七時ころに部員たちは総合球技場・アルウィンに入り、かじかむ手をこすりながら本番に備えて調整を重ねた。行進開始の合図が出ると、深沢厚顧問の指揮で、歯切れのいいハーモニーが会場に響き渡り、選手たちの入場を心待ちにしていた観客の表情を緩ませていた。

元気良く選手宣誓する筑摩イレブンの松木主将

行進が終わると部員たちはほっとした表情を浮かべて片付けに入った。深沢顧問は「熱い戦いを期待する」と笑顔で話し、柳沢部長は「力いっぱい頑張ってほしい」と声援を送った。

県内各地から集まった約1000人の選手たちが開会式に臨んだ

《大会1日目の結果》